

若葉台中学校は学校力と地域力で創る学校

－『学校づくりはまちづくり まちづくりは学校づくり』を

最も大切にして“若葉台の子ども”を育みます。－

学校長

『まち』には時代の潮流に流されない不退転の決意があります。

若葉台中学校が位置する若葉台地区は、昭和54年（1979年）に開設された比較的新しいと言って良い『まち』です。

若葉台地区が開設されてからここ数十年、世の中は高度成長時代からバブル期と、時代の潮流に翻弄されて不易流行の本質を見失ってしまったかのようです。

しかし、若葉台のまちには、開設当初から教育は国家百年の計の本質を同じくする教育は若葉台地区百年の計を不退転の決意とした不易なものがあります。

情緒の通う地域コミュニティ（共同体）が地域力の根源

若葉台地区の開設以来変わることのない学校に対する思いを、次の様に考えていただいています。地域に根ざした教育を目指すために、豊富な人生経験や知識・技能、人となりのすべてが『生き方に学ぶ』対象になります。

自分の住むまちの方と知り合いになれて、日常生活の中で頼れる大人がたくさんできたら、子どもにとって幸せなことです。

その関係の中か自分の生き方の手がかりを得たり、まちの一員としての自分にできることを気づいたりできればと展望しているところです。

若葉台のまちは、情緒の通う地域コミュニティ創造のために、追求し続ける地域力の根源がここにあります。

連携・協働・アウトソーシングへのコーディネートが学校力の根源

新設校である若葉台中学校は、昨年度若葉台地区小・中学校再編検討委員会における学校の魅力づくり小委員会で、新しい学校の魅力づくりについて検討してきました。

学校の魅力づくりとは何か？から、あるべき学校像へと検討を続け、学校づくりのコンセプトを『学校づくりは まちづくり まちづくりは学校づくり』の意思を再共有し、『誰もが行きたくくなるような学校、行かせたくくなるような学校』を目指すために、連携、協働、アウトソーシングへのコーディネートを図ることが学校の果たすべき役割として認識されたところです。

ここで、『連携』とは、立場の違うものが、繋がりが合っていくことであり、『協働』とは立場の違うものが同じ目的に向かって役割分担を果たすことであり、『アウトソーシング』とは、活動や取組の一部を地域の人々に担っていただくことであります。

若葉台地区の学校力は、教育力もあるということはいまでもありませんが、地域参画型の学校づくりを展開していく若葉台は、現在それぞれの分野で連携、協働、アウトソーシングを遂行していますが、さらにそれを体系化、組織化させるための、コーディネートの力が今後の学校力としても求められることとなります。

コーディネート力を高めるには、まず異校種間の連携から双方向の関係性を築くことです。

パイオニアスクールよこはま（P S Y）における若葉台地区小・中学校一貫教育の展開に向けて、教科教育カリキュラム検討と編成、情報教育カリキュラム検討と編成、体験教育カリキュラム検討と編成等を連携のカテゴリーとして、授業交流や研究授業を開催し、まず小学校と中学校の双方向の関係性を確立させることが必要になります。

ここで言う『双方向の関係性』とは、互いに連携してよかった、自己有用感を感じられる、子どもたちが変わってきた等、心から喜べるものでなければなりません。

魅力ある学校とは誰のためのものか・子どもたちのためのものであることは間違いのないことです。でも、誰にとっても魅力であることが必要なのではないのでしょうか。それは、今後若葉地区全体が学校にだけでな『学びのまち』として、誰もが『学び』に対しての連携・協働・アウトソーシングに係わっていくことでの双方向の関係性を確立させることにあるのではないのでしょうか。